

令和3年5月20日

南の風400

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

読者の皆様、ありがとうございます。

お陰様で南の風を400号まで続けることができました。毎回、毎回拙い内容、文筆にお付き合いいただき感謝申し上げます。

皆様から、「コーチングの参考になる」、「指導の引き出しが増えた」、「指導に関する情報や、各カテゴリーでの活動状況が分かり、現場での指導に生かせる」、また「〇〇〇も南の風で取り上げてほしい」等のお話やメールをいただき、たいへんありがたく思っております。こうした皆様からのお声を糧として、今後も少しでもお役にたてるよう発信して参ります。よろしくお願い致します。

399号の続きです。

「監督、マンツーマンに切り替えた方がいいです。」というガードの選手の声は、その後の私のコーチング、ベンチワークに大きな影響を与えました。

ミニバスといえども、「選手はゲームの流れを読み、自分なりにやるべきことは何かを考えてプレーしているんだな」ということに改めて気づかされました。

ミニバスは、プレーする彼らにとって初めてバスケットボールに向き合う年代です。クラブへの入部当初は教えることがたくさんあり、コーチから選手へのワンウェー（一方通行）の発信が多くならざるを得ません。分からないことだらけなのですからやむをえません。

しかし彼らの成長と共に、教えるべきことの吟味や支援の在り方、困り感への寄り添い方をコーチ自身が考えなければならぬと思います。

あのゲームの後、私が自省したのは、「日頃の練習やバスケットボール活動の中で、選手自身が気付いたり、考えたりしたことがもっとあったのではないか」、さらに「自分の思いや考えを監督やコーチに伝えたいことがあったのではないか」、そしてそういう環境を整えていたのか、ということです。

監督やコーチから選手へのワンウェーではなく、意思の疎通が図れるツーウェー（双方向）の環境を日頃から広げておく必要性を強く感じました。

最後になります。私の判断がよかったのか、結果オーライだけだったのかについてです。

県大会の女子準決勝でのことです。

相手チームは、県内でベスト4～8に入る強豪です。168cmのセンターを中心にオフェンスを組み立ててきます。過去何回か対戦し、負けたことはありませんでした。立ち上がり相手のセンターの選手が連続得点をします。私はベンチで、相手の積極性にやや押され気味だなと感じていました。自チームのオフェンスはシュートにはいけますが、決め切ることができない状態でした。1Qの残り時間が2分切ったところで相手にシュートを決められ、13対5（相手がリード）になりました。

私はタイムアウトを取りませんでした。自分ではゲームの流れを冷静に見ていたつもりでした。タイムアウトを取らなかった理由は、オフェンスは機能していてシュートの精度が悪かったただだからです。ここは、選手を信頼して任せようと思いました。次号にします。